

平成 18（2006）年の世界と日本の年平均気温について ～世界は第 3 位、日本は第 10 位の高温～

2006 年の世界の年平均気温の平年差は $+0.31^{\circ}\text{C}$ で、統計を開始した 1891 年以降では 1998 年、2005 年に次ぎ、第 3 位（タイ）の高い値でした。

2006 年の日本の年平均気温の平年差は $+0.44^{\circ}\text{C}$ で、統計を開始した 1898 年以降では第 10 位（タイ）の高い値でした。

世界の年平均気温

平成 18（2006）年の世界の年平均気温（陸域における地表付近の気温と海面水温の平均）の平年差^{*1}は $+0.31^{\circ}\text{C}$ で、統計を開始した 1891 年以降では 1998 年、2005 年に次いで 3 番目に高い値（2003 年、2002 年とともに第 3 位タイ）でした。世界の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 0.67°C の割合で上昇していますが、特に 1980 年代中頃以降、高温となる年が頻出しています（図 1）。

日本の年平均気温

平成 18（2006）年の日本の年平均気温の平年差^{*1}は $+0.44^{\circ}\text{C}$ で、統計を開始した 1898 年以降では 10 番目に高い値（1961 年とともに第 10 位タイ）でした。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.07°C の割合で上昇しており、特に 1990 年代はじめ以降、高温となる年が頻出しています（図 2）。

平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響に、十年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものと考えられます。

世界及び日本の年平均気温、月平均気温並びにその算出方法は、気象庁ホームページにて随時更新・掲載しています

（<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>）。

^{*1} 平年差とは平均気温から平年値（1971～2000 年の 30 年平均値）を差し引いた値を意味します。

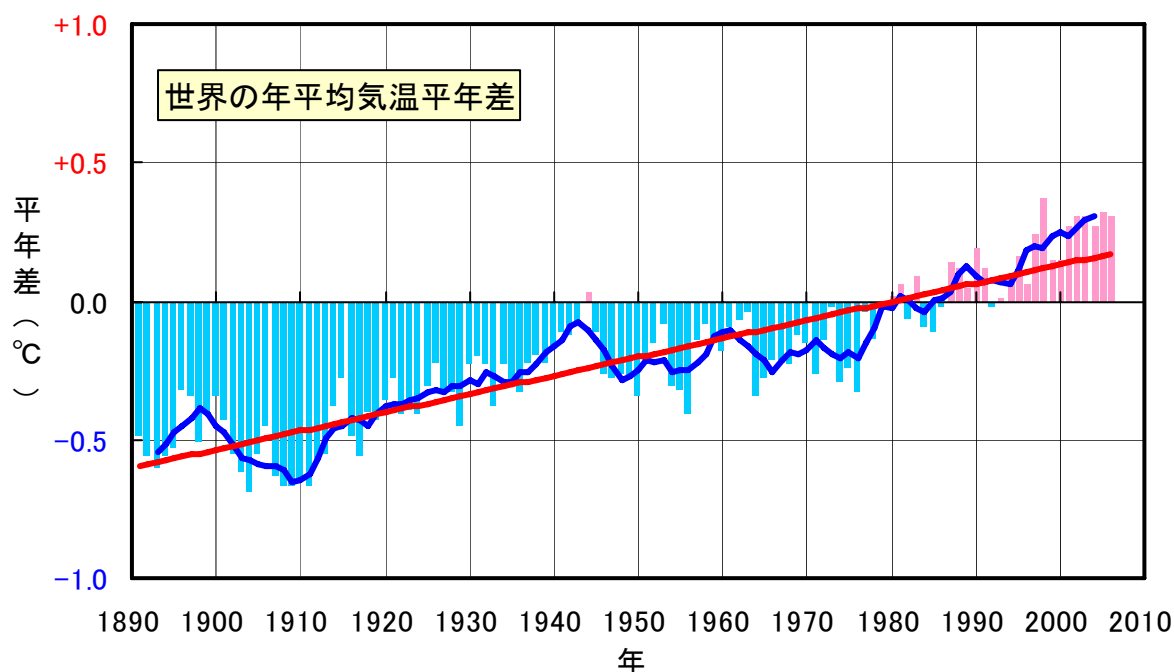


図1 世界の年平均地上気温の平年差の経年変化(1891～2006 年)
棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均を、赤の直線は長期変化傾向を示す。

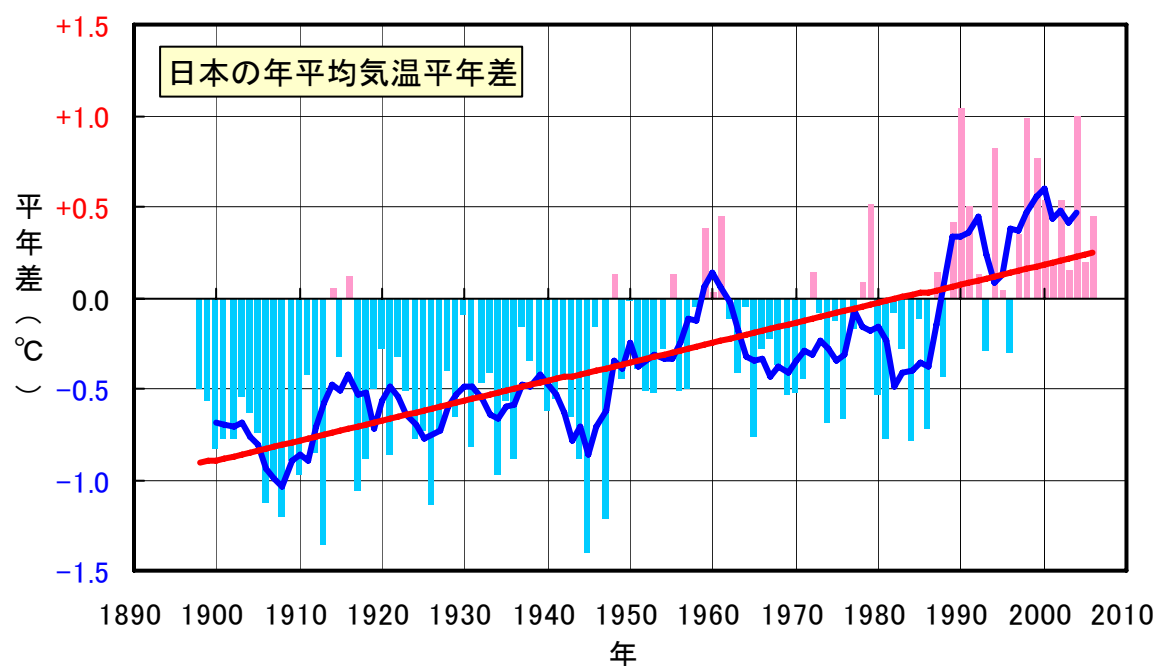


図2 日本の年平均地上気温の平年差の経年変化(1898～2006 年)
棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均を、赤の直線は長期変化傾向を示す。

(参考) 年平均地上気温の平年差が大きかった年

世界	①1998 年 (+0.37°C)	日本	①1990 年 (+1.04°C)	⑥2002, 2000 年 (+0.53°C)
	②2005 年 (+0.32°C)		②2004 年 (+1.00°C)	⑧1979 年 (+0.51°C)
	③2006, 2003, 2002 年 (+0.31°C)		③1998 年 (+0.98°C)	⑨1991 年 (+0.50°C)
			④1994 年 (+0.82°C)	⑩2006, 1961 年 (+0.44°C)
			⑤1999 年 (+0.76°C)	